

忘れ去られたシェル構造、「モーラ式構造」

大／阪／の／建／築／まちあるき——「やお・かしわら」

てんりきょうきたさかぶんきょうかい(きゅうたかおかいしまつてい)
天理教北阪分教会 (旧高岡石松邸)



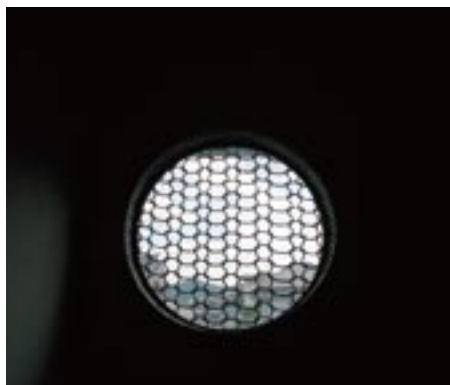
母屋 正面外観



獅子と天秤の彫刻



地下室 鳳凰の彫刻



編んだ鉄線が判る明り窓



和室 欄間

所在地： 柏原市片山町 1-19
最寄駅： 近鉄大阪線「河内国分」駅
北西へ約 300 m
文化財指定等：国登録有形文化財
見 学： 未公開
TEL： 柏原市教育委員会文化財課
072-976-3430

この建物は、近鉄河内国分駅北西の丘陵地にあり、車窓からも望むことができる。現在は周りの建物に埋もれてはいるが、竣工当時の昭和14年頃は丘陵地に異彩を放つ建築物だったに違いない。

構造は聞きなれないモーラ式構造である。モーラ式構造とは、メリヤス業を営んでいた高岡石松がメリヤスの編み方を鉄線に応用、左官に関する著書を多く残している鈴木忠五郎と共同開発、主筋となる編んだ鉄線にモルタルを左官鏝で塗り込んで構造体とする画期的な工法であった。敷地内には母屋、倉庫、離れ、と3棟の建物と欄干にモーラ式構造が、擁壁には竹筋コンクリートが使用されている。

母屋玄関（竣工時は正面左が洋風、右が和風）に入ると、ホールと階段を隔てて左側に3mほどの天井高がある15帖の洋間と右側に縁側付きの8帖と10帖の和室の続き間がある。和室の欄間には竜の彫刻が、玄関天井と階段手すり壁には天秤と剣をあしらった石膏彫刻、階段親柱にはモザイクタイルの台座の上に獅子が鎮座している。また、地下室の壁には鳳凰の石膏彫刻、最上階の塔屋は八角形であったりと、所々に中国文化を連想させる痕も残っている。倉庫、離れにも建物の内外部に左官技術を駆使した彫刻や装飾が多数みられる。

個人の邸宅としては規模が大きく、建物の形態から考えると、メリヤス業で財を成した高岡石松が海外の客人をもてなした迎賓館だったと考えられる。

モーラ式構造の建築物としては現存する最後の建物群と思われる。

(辻野忠彦)